

(1) MAFF 240422 (農業生物資源研究所, NIAS Genebank)

ウリ類炭疽病菌 MAFF 240422 (株名: 104-T) *Colletotrichum orbiculare* (Berk.) Arx. (syn. *C. lagenarium* (Pass.) Ellis & Halst.) は1951年, 当時京都大学植物病理学研究室におられた安盛 博博士により親菌株 104-55 から分離された。この菌株は, 安定した孢子形成能と病原性を持ち, 同調的に形態形成を行うという優れた形質をもった系統であり様々な実験に広く利用されてきた。その結果, 菌自体の分子パターンをはじめ, 植物との相互作用や感染生理の研究で数多くの研究成果が生み出されてきた(安盛(1957, 1962) ~ Damm *et al.* (2010) など原著論文 60 報以上, 久保(2007) や Yoshimoto *et al.* (2010) など著書・総説 20 編以上 <http://ykubo.blog.eonet.jp/default/2007/11/104-t-fd36.html>)。京都大学から NIAS Genebank に寄託されたのは2008年初頭であり, その約1年後配布カタログに掲載された。当機関にとっては伝統ある古株のニューフェイスである。最近では, 久保康之教授を中心とした京都大学等のグループにより精力的に本菌株のゲノム解析が行われており (Sakaguchi *et al.*, 2010), 植物病原菌では今なお最先端を走り続ける数少ない売れ筋菌株である。

Damm, U., Baroncelli, R., Cai, L., Kubo, Y., O'Connell, R., Weir, B., Yoshino, K. & Cannon, P.F. 2010. *Colletotrichum*: species, ecology and interactions. IMA Fungus **1**: 161-165.

久保康之 2007. 植物病原糸状菌の形態形成と植物免疫. 植物防疫 **61**: 704-707.

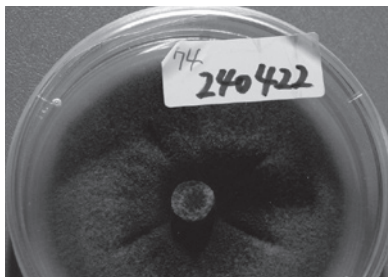
Sakaguchi, A., Tsuji, G. & Kubo, Y. 2010. A Yeast STE11 Homologue CoMEKK1 Is Essential for Pathogenesis-Related Morphogenesis in *Colletotrichum orbiculare*. Molecular Plant-Microbe Interactions **23**: 1563-1572.

安盛 博 1957. 瓜類炭疽病菌の寄生体侵入に就いての観察. 日本植物病理學會報 **22**: 119-122.

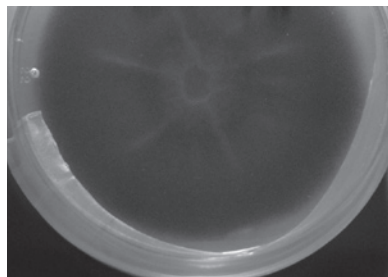
安盛 博 1962. ウリ類たんそ病菌分生孢子の形成ならびに孢子内の脂肪と炭水化物含量について. 島根農科大学研究報告 **A10**: 26-31.

Yoshimoto, K., Takano, Y. & Sakai, Y. 2010. Autophagy in plants and phytopathogens. FEBS Lett. **584**: 1350-1358.

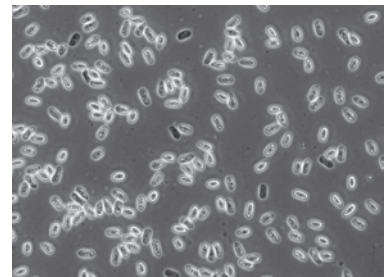
(佐藤豊三)



MAFF 240422 PDA 培養菌叢表



MAFF 240422 PDA 培養菌叢裏



MAFF 240422 PDA 上分生子